

## 平成18年度決算概況について

横浜信用金庫(横浜市中区尾上町2-16-1 理事長 斎藤 寿臣)は、平成19年6月22日(金)の通常総代会において平成18年度の決算について報告します。

つきましては、「平成18年度決算資料」を添えてお知らせします。

### 1. 本決算のポイント

- (1) 56期連続黒字決算
- (2) 不良債権残高の減少
- (3) 自己資本比率の上昇

### 2. 業 容

預金(譲渡性預金を含む)平均残高は、前年度比1.74%増加し1兆2,888億円となりました。預金期末残高は、法人預金・個人預金ともに順調に推移して前年度比3.22%増加し1兆3,479億円となりました。

貸出金平均残高は、前年度比2.18%増加し8,157億円、期末残高は同1.65%増加し8,503億円となりました。貸出金平均残高は前年度6期ぶりに増加に転じ、当年度も引き続き順調に伸びて、4期ぶりに8,000億円台を回復しました。

### 3. 損 益

経常収益は、前年度比6億91百万円増の298億66百万円となりました。

資金運用収益が増加したことによります。

経常費用は、前年度比13億7百万円増の240億19百万円となりました。資金調達費用と有価証券の売却損・償還損が増加したことによります。

この結果、経常利益は、前年度比6億16百万円減の58億47百万円となりました。

また、本業の収益力を表わす業務純益(一般貸倒引当金繰入後)は、前年度比15億28百万円減の59億60百万円となりました。有価証券の売却損・償還損の増加のほか、前年度に計上した一般貸倒引当金戻入を当年度は個別貸倒引当金戻入と合算して特別利益に計上したことが減益の要因です。

当期純利益は、前年度比23億35百万円増の55億1百万円となりました。不良債権の減少に伴い貸倒引当金戻入益14億47百万円が発生したことと、前年度に計上した固定資産の減損損失(7億76百万円)が当年度は発生しなかったことが増益の要因です。これにより、昭和26年に信用金庫に組織変更して以来、56期連続の黒字決算となりました。

#### <不良債権処理費用>

	17年度	18年度	増減額
貸出金償却	2百万円	9百万円	6百万円
個別貸倒引当金繰入額	1,070	—	△1,070
債権売却費用	148	54	△94
合 計	1,221	63	△1,157

(参 考)

一般貸倒引当金繰入額	△647	—	647
------------	------	---	-----

(注) 貸倒引当金繰入額は個別貸倒引当金繰入額と一般貸倒引当金繰入額の合計額となります。

#### 4. 諸比率

貸出金利回は前年度比0.03ポイント低下し2.59%、預金利回は同0.06ポイント上昇し0.13%、経費率は同0.02ポイント低下し1.46%となり、預金貸出金利鞘は同0.07ポイント縮小の1.00%となりました。

資金運用利回は前年度比0.04ポイント上昇し1.94%、資金調達原価率は同0.05ポイント上昇し1.63%となり、総資金利鞘は同0.01ポイント縮小の0.31%となりました。

自己資本比率は、当年度から適用されている新BIS基準では9.94%となりました。旧基準では、前年度比0.88ポイント上昇の10.06%となりました。両基準においても、国際基準（8%）を上回る高い水準を維持しています。

#### 5. 不良債権

不良債権残高は、信用金庫法基準・金融再生法基準共に前年度末に比べ19%弱減少しました。不良債権比率は、信用金庫法基準が前年度の6.05%から4.84%に、金融再生法基準が前年度の6.00%から4.79%に、5期連続して低下しました。

また、不良債権に対する担保・貸倒引当金等による保全率は91%を超えています。

#### 6. 19年度計画

19年度の利益計画は次のとおりです。

①業務純益	68億98百万円	(前年度比	+9億38百万円)
②経常利益	53億94百万円	( "	△4億53百万円)
③当期純利益	35億27百万円	( "	△19億74百万円)

たしかな明日のお手伝い



横浜信用金庫

神奈川・東京に60店舗